

《担当者名》薄井 明 usui@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

社会心理学には大きく社会学系統のものと心理学系統のものがあるが、本授業では心理学系統の社会心理学を中心に講義する。

【学修目標】

- ・他者に対する認知メカニズムに関する基礎知識を身につける。
- ・諸対象への態度とその変化のパターン及びメカニズムに関する知識を身につける。
- ・他者や集団が個人に与える影響やその効果的技法に関する知識を身につける。
- ・他者に対する援助行動/攻撃行動に関する基礎知識を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	導入	本講義は「社会心理・学」か「社会・心理学」かを明確にし、本講義の主題を紹介する。	薄井
2	対人認知(1)	対人認知のうち「帰属理論」の概要を紹介する。	薄井
3	対人認知(2)	「帰属理論」の応用編として「帰属バイアス」「帰属依存感情」「原因帰属と援助行動」などについて考察する。	薄井
4	態度と態度変化(1)	社会心理学における「態度」の定義と構造について論じる。次に態度変化の代表的理論である「バランス理論」を紹介する。	薄井
5	態度と態度変化(2)	態度変化の代表的理論である「認知的不協和理論」の概要を説明し、基本構造となる「情報への選択的接触」のメカニズムを考察する。	薄井
6	態度と態度変化(3)	「認知的不協和理論」のうち「決定の結果」「努力の正当化」「強制的承諾の結果」のメカニズムを考察する。	薄井
7	態度と態度変化(4)	説得的コミュニケーションのうち「情報源の信憑性・対人魅力」「一面呈示/両面呈示」「恐怖喚起」を考察する。	薄井
8	社会的影響(1)	要請技法のうち「フット・イン・ザ・ドア法」「ドア・イン・ザ・フェイス法」「ロー・ボール法」を紹介し、それらの効果の要因を考察する。	薄井
9	社会的影響(2)	「同調」とその逆の「マイノリティ・インフルエンス(少数者影響)」を映像資料を交えて紹介し、その効果の要因を考察する。	薄井
10	社会的影響(3)	ミルグラムの「権威への服従」実験の映像をもとに「服従」が起こりやすい要因について考察する。	薄井
11	対人行動(1)	援助行動を抑制する「傍観者効果」を紹介し、援助行動の発現/抑制の条件について考察する。	薄井
12	対人行動(2)	「攻撃」に関する主要学説を紹介し、攻撃行動の発現/抑制の条件について考察する。	薄井
13	集団と個人(1)	「社会的促進」「社会的手抜き」「リスク・シフト」など他者がいることによる課題遂行・意志決定への影響について考察する。	薄井
14	集団と個人(2)	「リーダーシップ」の問題を「三隅のPM理論」を中心に考察する。	薄井
15	総括	学習の成果を確認する。	薄井

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%

【教科書】

特に使用しない。必要な資料は配布する。

【参考書】

安藤・大坊・池田（著），『社会心理学』（現代心理学入門4），岩波書店。

【備考】

この科目は、教職課程（公民）では、教科に関する科目の「哲学、倫理学、宗教学、心理学」に該当する。

【学修の準備】

「帰属理論」「バランス理論」「認知的不協和理論」の回で、授業前または授業後に「授業内容の理解を深めるための自習課題」を配布するので、指示に従ってやってくることを。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP3